



宿南地区運動会 雨天中止でした

9月22日（日）は、あいにくの雨のため、地区運動会は中止になりました。

小学校運動会は翌日の23日（月）に実施されました。子供達の演技には地区民や家族の声援が飛んでました。地区運動会に出場予定をしていた地元中学生の「よさこい」の演技披露があり、観客から多くの拍手とアンコールをいただきました。最後には、やちゃ踊り保存会の皆さまと全員で「宿南音頭」で締めくくっていただき無事に小学校運動会も終了しました、



第65回宿南地区文化祭 開催します



11月17日（日）午前小学校学習発表会、午後地区文化祭を開催します。

今年度は午後の芸能発表会終了後、豪華景品付き 福引き大会 も開催します。お楽しみに！

別途、文化祭お知らせ・農林物産展出品について・展示作品 一般芸能 カラオケ募集のチラシを配布しますのでご覧ください。

農林物産の出品につきましては、各会員様に2枚の荷札（エフ）を配布いたします。

1点でも多く出品をお願いします。荷札が足りない方は各区区長か自治協に連絡をお願いします。

喫茶ひまわりも「ひまわりカフェ」を営業しますのでご利用ください。



小学校田で稲刈りをしました



9月30日（月）午後より3年生・4年生・5年生の児童11名で

小学校田の稲刈りを行いました。

現在は機械化でコンバインで刈り取り乾燥機に入れば1日で出来上がりますが、稲刈り鎌を使って行います。最初に営農組合の方から鎌での刈り取り方法、束ね方の説明を受けました。今年は風雨の強い日が多く倒伏が多かったため刈り取りがやりにくいというのに、3株位を刈り取ったら束ねると聞いていたものの束ねが難しいようでした。束ねの次は、稲木にかけて乾燥させます。

お米を作るには八十八の手間がかかると言われています。昔は今のようなコンバインはなかったので全部鎌で刈り



取り、束ね、稲木に掛けて何日間か乾燥させ、その後脱穀でした。

今日収穫したつやつやの新米を早く食べたいと思った人は多かったのでは・・・

刈り取り作業終了後には全員で稲木の前で記念写真に納まりました。



身近で見られる植物 ④

シュウカイドウ（秋海棠）

〈シュウカイドウ科〉

中国原産、江戸時代初期に園芸用として渡来した植物です。8月ころから10月にかけて、



ベゴニアによく似た花を着けます。

花言葉は、葉の形が非対称のハート型をしていることから「片思い」です。

シュウ酸カルシウムやベゴニン

などの有毒成分が含まれており、誤飲をすると下痢、嘔吐をするので要注意です。



自治振興部会開催

10月10日（木）ふれあいホールにて「住民会議」を開催しました。若い世代の方10人の出席があり全住民アンケートの集約結果をふまえ、これから10年先の宿南を考えて意見交換を行いました。

子供の遊び場 親子で楽しめるイベント、

自由に使える場所や施設

移住・定住・Iターン・Uターンを増やす

空家対策 等々 たくさんの意見・発言がありました。

地域づくり計画に取り込み皆で一緒に実現していきましょう。



お知らせ

10月20日（日）市長・市議会議員投票日 10月25日（金）文化祭出品・出演申し込み締切

10月27日（日）衆議院議員投票日 10月27日（日）村民号（鳥取方面）

11月 1日（金）文化部会 11月17日（日）文化祭（午前 小学校 午後 地区）



草庵先生紹介

日記 68



草庵のもとに黒船来航を伝える情報が同じ日に3カ所から届いた。手紙を読む草庵と、それを取り囲む塾生たち

宮崎和夫さん作

嘉永6（1853）年の旧暦の6月3日、浦賀（神奈川県横須賀市）沖に4隻の巨大な黒船が突如あらわれた。ペリー提督の率いるアメリカ海軍の軍艦だった。これは日本中に大嵐の波を起こし、250年以上続いた徳川幕府体制をも揺り動かした。この波は、山陰の山あいの静かだった青谿書院にも徐々に押し寄せてくる。黒船は6月3日に浦賀に入ったが、この情報を池田草庵はいつ知ったのだろうか。

「宇都宮と京都の山田仙太郎の書状が届く。また、八鹿より使いの者が来る。いずれも、東方の浦賀の風説を伝えてきた（後略）」（嘉永6年6月19日）

草庵が黒船がやって来たのを知ったのは約半月後だった。同日に3方からの情報が草庵のもとに届いたのだ。宇都宮（栃木県）は関東にあり、かなり詳しく情報を得ることができる地域にある。そこには、知人の岡田真吾らがいてそこから知らせてきたようだ。京都の山田仙太郎からも来ているが、彼は友人春日潜庵の門下生である。公家につながる潜庵にも、比較的早くその情報は伝わったのだろう。そして、地元の八鹿（養父市）の人かからも伝えてきている。この八鹿の人がどういう立場の人だったのかはわからない。3人の人たちはそれぞれに黒船来航に驚き、このことを少しでも早く草庵に、と知らせてきたのだ。

翌日、草庵は手紙を書いた。「昼寝から目覚めてお茶。手紙を4通書く。宇都宮の岡田と坂口千橘、それに京都の山田と安積（和田山出身の門人で、その頃は京都に滞在）。（後略）」（同20日）さらに新しい情報があれば、知らせてほしいというようなことを頼んだのではない。そして、4日後の日記。

「今日の朝、異国船の的確な情報の書き物来る、。それらを念入りに読む」（同24日）。この新たな的確な情報が、どこからのものでどんな内容だったかなどは書かれていない。しかし、草庵にとっては異国船の来航の 詳しい情報は少しでも早く知りたいところだった。外国とどのように向き合っていくか、つきあっていくか、草庵にとっては今まであまり考えたことのなかった問題に直面していく。

池田草庵先生に学ぶ会